

楠根ためにタナゴをもどそう 生物多様性の復元

「楠根ため」復元計画

計画

池と周辺の生態系に関する事前調査をし、復元計画をつくる

池干し

水抜き
在来・外来種の選別駆除など

復元

在来種の再放流など

維持

地域主体で生態系の維持管理に取組む

東海タナゴ研究会では池干しの前に、今後どのような池にしていくかを明確にしておくため池の生物多様性の復元計画を立てます。

まず事前に池や池とつながる河川と周辺の生態系を調査したうえで、楠根ためにもともいたタナゴ(アブラボテ)の生息環境の保全を目指していくことになりました。

タナゴが生息するためには、卵を産みつけるためのイシガイ科の二枚貝、さらに二枚貝の幼生が寄生して育つためにヨシノポリなどの池底に生息する魚が必要です。池を干して、タナゴの生息を脅かす外来種を駆除し、池の底にたまっていた泥を干すことで二枚貝の数も増えてきました。

さらに少しずつタナゴの生息環境が整ってきた段階で、一時的に保護し繁殖させてきたタナゴをため池に再放流しました。

専門の知識を持った東海タナゴ研究会が在来種・外来種の選別をします。池を干した後、在来魚は再放流されます。(写真は勘四郎ための池干し)

在来魚の放流。日本魚類学会「生物多様性の保全をめざした魚類の放流ガイドライン」に基づき、放流します。(写真は勘四郎ため)



北島さん「タナゴを増やしていく過程は、ワクワクします。数が増えてくると、何ともいえない嬉しい気持ちになります。」
タナゴを守るには、タナゴを取り巻く生態系を守っていく必要があるのです。

外来魚の放流 再び

初めての池干しの後、楠根ために再びブラックバスが放流されていることが確認されました。増えつつあったタナゴの数も一気に減ってしまい、周囲は落胆したそうです。

そんななか「もう一度、池を干せばいい。」という地域の人からの声もあり、平成22年、2回目の池干しが実施されました。
そして現在の楠根ためでは、順調にタナゴの数も増えはじめています。ヨシノポリやカワムツなどの魚の姿も見られるようになりました。
また、楠根ための生態系の保全活動が高い評価を受け、平成22年「全国ため池百選」に選ばれています。
北島さん「地域の生物多様性を維持していくためには、地域の人が中心となって、池の環境を守っていくことが重要です。」
楠根ための池干しは、地元の「田光資源と環境を守る会」や行政などとともに進められてきました。菰野町田光区では楠根ためだけでなく、他のため池の池干しも行っており、地域では「外来魚完全駆除宣言」を出しています。
今後とも池干しとため池の管理を継続していくことで、地域全体の生物多様性を守っていくことを目指しています。

タナゴとヨシノポリと二枚貝の関係



イシガイ科の二枚貝

タナゴは生きたイシガイ科の二枚貝に産卵。卵は貝の中で成長し、稚魚となってから泳ぎ出していく。



ヨシノポリ類

イシガイ科二枚貝の幼生は、ヨシノポリなどのヒレやエラに寄生して過ごした後、魚から離れ幼貝となり池底で生活を始める。